

平成 24 年度 県民公開講座 (野生傷病鳥獣保護収容事業関係者研修会) の開催

平成 25 年 1 月 19 日 (土) 午後 1 時 30 分からユニゾンプラザで野生傷病鳥獣保護収容事業関係者研修会が公開講座として開催され、一般県民 (新潟県野鳥愛護会会員含む) 15 名 新潟県及び市町村職員 7 名、獣医師会会員 14 名 (事業協力病院関係者 6 名、保健所 2 名 家畜保健衛生所 1 名、その他 5 名) の合計 36 名の方から参加をいただきました。

当会楠原会長理事の開会挨拶に続き、来賓としての新潟県県民生活・環境部環境企画課 海藤秀明参事 (課長補佐) からご挨拶をいただきました。挨拶のなかで、「毎年県内各地から保護収容している野生傷病鳥獣の収容頭羽数の約 70~80%は事業に協力していただいている動物病院経由である」と協力に対する感謝の言葉がありました。

研修会 (公開講座) の講師は、日本歯科大学 新潟生命歯学部・生物学 教授 千葉 晃先生 (農学博士) で「新潟県の自然環境と野鳥のくらし」と題して講演をいただきました。

講演では、新潟県の野鳥相 (そこに住む野鳥の全て) は、①県境に発達した山岳地帯、②冬季の卓越した季節風と山地中心の豪雪、③水量豊かな河川と広がる沖積平野、④沿岸部に残存する湖沼、⑤内海的な日本海と佐渡・粟島、⑥潮の干満差が少ない単調な海岸等の新潟県の特徴的な環境要素を反映して、415 鳥種が確認され、これらのうち 51 種が本県の希少種に指定されていること、新潟県の自然環境は高い多様性と包容力を兼ね備えていると説明されました。

また、水鳥や水辺の鳥たちの多彩な暮らしぶりを「食と住」という観点から捉え、さらに命のつながり「求愛行動」、「生殖」について多数の美しい写真の紹介とともにウィットに富んだ解説があり、最後に環境の変化 (地球温暖化、ダイオキシン等の環境汚染物質の拡散) と野鳥への影響について述べられました。

講演終了後は活発な質疑応答があり、盛会裏に公開講座が終了しました。



講演される 千葉 晃 先生



来賓挨拶 環境企画課 海藤参事



受講風景



熱心に受講する参加者